

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2024年 第12週（3月18日～3月24日）

今週のコメント

～RSウイルス感染症～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 増加続く」

第12週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,284例であり、前週比7.7%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、手足口病の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.08、3.08、2.23、0.36、0.35である。

感染性胃腸炎は前週比16%減の1,005例で、三島8.18、北河内6.12、大阪市北部5.93、中河内5.75、泉州5.38であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は7%減の609例で、北河内・大阪市南部4.00、堺市3.79である。

RSウイルス感染症は21%増の441例で、大阪市北部3.71、南河内3.25、北河内3.24であった。7週連続で増加している。

咽頭結膜熱は1%減の71例で、南河内1.06、泉州0.86、大阪市北部0.57である。

手足口病は34%減の69例で、泉州0.67、南河内0.56、三島0.53であった。

インフルエンザは23%減の1,539例で、定点あたり報告数は5.01である。三島6.26、南河内6.21、大阪市西部6.13、堺市5.86、豊能5.38であり、7週連続で減少している。

新型コロナウイルス感染症は7%減の1,101例で、定点あたり報告数は3.59であった。堺市4.69、泉州4.35、南河内4.29、豊能4.22、大阪市北部3.65であり、7週連続で減少している。

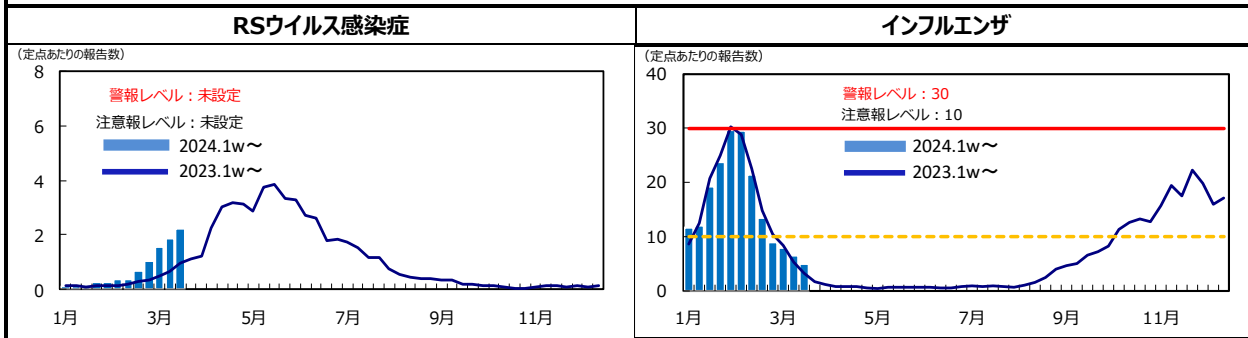


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2024年 第12週3月18日～3月24日）

第12週の順位	第11週の順位	感染症	2024年 第12週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2023年 第12週の 定点あたり 報告数	2024年第12週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.08	16%減	4.74	1歳_12%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.08	7%減	0.51	10-14歳_14%
3	3	RSウイルス感染症	2.23	21%増	0.96	1歳未満_32%
4	5	咽頭結膜熱	0.36	1%減	0.22	1歳_18%
5	4	手足口病	0.35	34%減	0.07	1歳_32%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	5.01	23%減	3.21	10-14歳_33%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	3.59	7%減	-	10-19歳_12%

新型コロナウイルス感染症は、定点種別が異なるため、参考として記載しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降\(大阪府\)』の情報をご覧ください。](#)

[詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症\(大阪府感染症情報センター\)』の情報をご覧ください。](#)

突発性発疹については、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

2023/24年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

第12週のコメント

～梅毒～ 大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期について多く、全国では2021年7,873例、2022年13,226例、2023年度14,906例と増加している

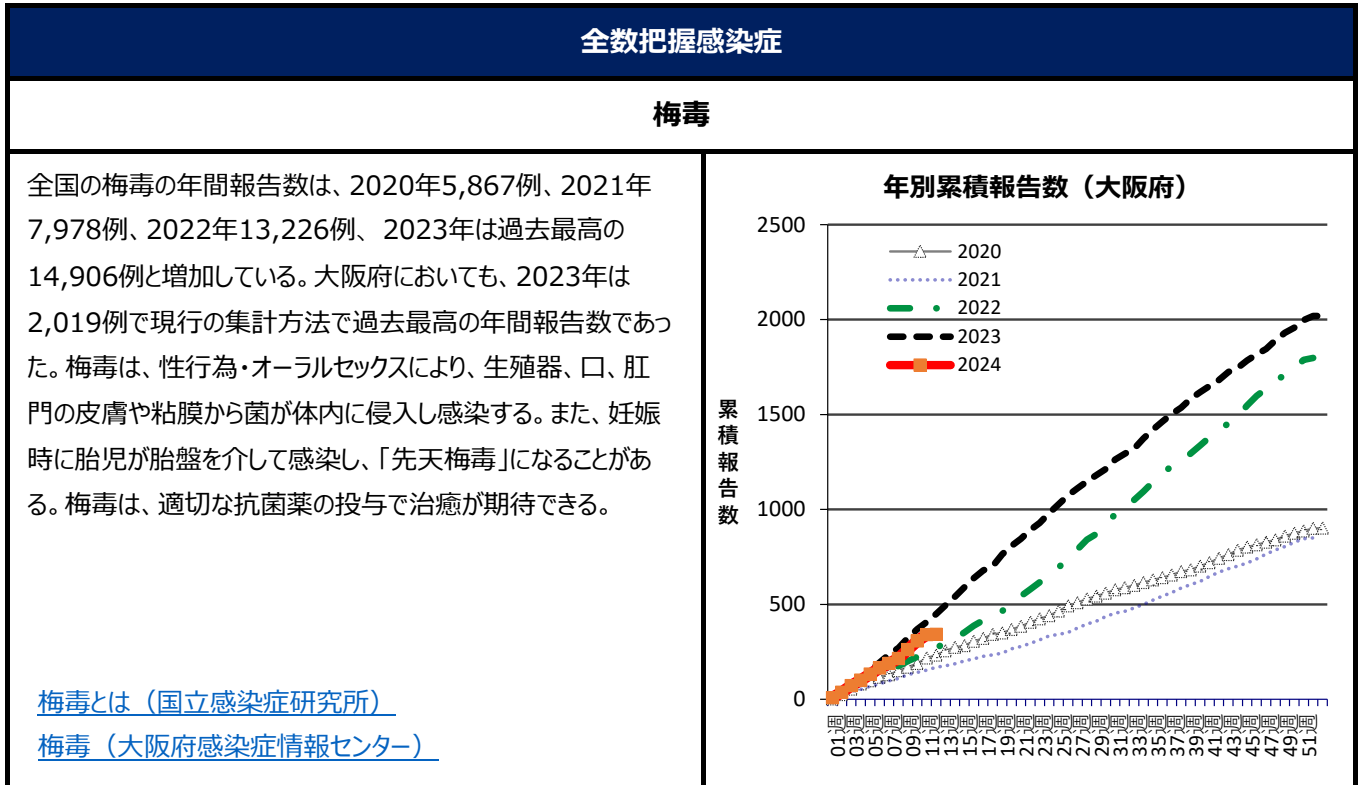


表2. 大阪府全数報告数（2024年 第12週3月18日～3月24日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	2	1	1							20
5類感染症	急性脳炎	1							1		8
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2		1	1						15
	侵襲性肺炎球菌感染症	3	1	1				1			60
	梅毒	2								2	342
結核 (2024年1月分)	結核 新登録患者数：76名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 30名) (府内累積報告数 76名、内 肺・喀痰塗抹陽性 30名)										

(2024年3月26日 集計分)